

(54)フォルクスワーゲン自動車の排ガス規制装置の不正事件

大気汚染被害が世界に広がっている。特に、ウランバートル、ニューデリー、北京などの大都市圏では汚染が深刻で、世界では毎年、大気汚染による肺がん死などの健康被害は、約 300 万人に達していると報告されている。

このような中、2015 年、ドイツの自動車メーカーVW のディーゼル車の排ガス規制不正が発覚した。規制違反は、検査ラインで排ガステスト時にのみ有害物質の排出量を低く抑える機器(デフィート・デバイス)が利用されていたということである。この不正を受けて、アメリカ合衆国は、2017 年に、300 億ドル以上の罰金、約 600 万台に及ぶディーゼル車の買い戻し、世界では、最大 1100 万台のリコール(回収、無料修理)を命じた。買い戻された車が砂漠に 30 万台も保管されているという写真が新聞紙上に掲載された。また、2018 年 5 月には、ミシガン州のデトロイトの検察が、VW の元社長のマルティン・ヴァンターコーンを起訴した。すでに、アメリカで起訴された VW 幹部は 9 人で、2 人は有罪・禁固刑となっている。

一方、ドイツでは、VW を中心とした自動車産業は、ドイツ経済の中核企業であることから、排ガス装置のソフトウェアの更新で、不正問題を収めようとしてきたが、アメリカでの司法府の動きに呼応して、6 月 13 日、ドイツのブラウンシュバイクの検察が、VW グループが 2007 年から 15 年までの期間に、1000 万台以上の車に排ガス中に含まれる有害物質を不正に操作する装置を搭載したとして、10 億ユーロ(1300 億円)の罰金を支払うことを命じた。捜査は、VW に限らず、VW グループのアウディ幹部にも及び、さらに、ドイツ BMW、ドイツダイムラーも、ディーゼル車のリコールに追い込まれる事態に陥った。また、連邦裁判所は、個々の自治体でディーゼル車の走行禁止を容認する判決を下している。EU 内においても、ディーゼル車を規制する動きは進み、ディーゼル車の販売は急減し、電気自動車へと転換が急がれている。

排ガス規制の不正問題は、巨大産業の経営刷新と方向転換を促している。